

移住定住の促進について

理科大や葛飾区と協力し 移住促進に繋がりたい



高森 功治 議員

高森 平成27年10月、

本町の地方版総合戦略が策定され、その中に、移住定住の促進をはかるという項目があり、「地域おこし協力隊の活用と定住化の促進」とある。

具体的にどのような地域おこし策をするのか、また、移住定住を促進するため、どのような施策を実行するのか。

町長 地域おこし協力隊の業務内容は、観光・商工・農業分野を想定しており、観光協会勤務による観光事業の推進や宣伝、商工会事務局勤務による商工事業の推進や宣伝、また、農業支援員として、理科大との連携によるアグリビジネス事業や6次産業化支援なども含め、各種農業振興支援に従事する。

移住定住を促進するため、空き家バンクや移住ナビの整備など情報発信の強化、無農薬実践農場



北海道新規就農フェア（東京）

と連携した移住者の受け皿づくりやPR活動を推進する。また、地域おこし協力隊員自身の定住や、先進的アグリビジネス事業の展開などで、将来的には農業法人設立による雇用の創出を目指し、都市部からの移住定住に結びつけたい。

高森 協力隊員は何名の公募を予定しているか、また、公募のプロセスとこれからどんな段取りを踏み、協力隊事業を成功させようとしているか。

町長 協力隊員は5名ほどの公募予定である。

プロセスとして、北海道観光まちづくりセンターと連携して募集を進め、4月1日を目途に受け入れたい。

現在、協力隊員として他町で活躍されている方に、長万部町での受け皿づくりをどのようにするか、スムーズに仕事をするための体制づくりはどうしたらよいか話を伺ったところ、長万部町に来る協力隊員と、他町の協力隊員との連携、お互いの心のケアも含めた連携を進めていくと成功に導かれると伺った。また、生活をきちんと支えてあげる必要もあるとの事であった。協力隊員を迎える町民の気持ちも大事だと思っている。協力隊員は、長万部町のために、自分達がここに定住するという気持ちを持って来ていただけると確信して

いる。

高森 理科大や葛飾区と協力して移住の促進に繋がりたいとあるが、具体的には。

町長 先日、東京と札幌で新規就農フェアを開催したところ、長万部ブースには28組34名が相談に見えた。他ブースよりも多くの相談者が訪れたとの事で、長万部町に魅力を感じている方がいるのだと思う。

今後も、葛飾区との交流、民間交流も含めて進めたい。そのためには、移住定住事業の受け皿として住環境の整備が一番肝心であるので、これからその辺りを整理して進めたい。

